

## 栽培のポイント

### ◆ 播種量

「ホワイトファイバー」は千粒重が小さいため、播種量は「シュンライ」と同量以下になるよう播種機を調整してください。

### ◆ 追肥

もち性大麦の特徴を発揮するには、高いβ-グルカン含有率が求められます。追肥は幼穂形成期・減数分裂期の2回を基本とし、β-グルカン含有率の低下を避けるため、減数分裂期追肥を必ず行ってください。

### ◆ 踏圧（麦踏み）

「ホワイトファイバー」は耐倒伏性が「シュンライ」と比べてやや劣る「やや強」であるため、踏圧は越冬前1回・越冬後1～2回を目安に必ず行ってください。

### ◆ 病虫害防除

赤かび病抵抗性は「シュンライ」と同程度の「やや弱」なので、赤かび病防除は適期に行ってください。

### ◆ 収穫

「ホワイトファイバー」は、穂発芽性が「中」なので、刈遅れによる品質低下を避けるため、適期収穫に努めてください。

発行 宮城県農政部みやぎ米推進課・古川農業試験場

#### 【みやぎ米推進課】

〒989-8570  
宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1  
TEL:022-211-2841 FAX:022-211-2849

#### 【古川農業試験場】

〒989-6227  
宮城県大崎市古川大崎字富国88  
TEL:0229-26-5106 FAX:0229-26-5102

本マニュアルの内容は、県ホームページでもご覧になれます。

アドレス：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noonkan/mugi-daizu.html>

# もち性大麦 「ホワイトファイバー」栽培マニュアル

## もち性大麦「ホワイトファイバー」

「ホワイトファイバー」は、長野県農業試験場が、早生・多収・糯性などを目的に、平成10年から育成を進めてきた「もち性大麦」の品種です。

食物繊維を豊富に含む「もち性大麦」は、便秘解消や血糖値の低下などの効果が期待される食品として、近年注目されています。

宮城県では、平成28年10月に奨励品種に採用したところであり、今後、「シュンライ」の一部切り替えによる生産拡大を進めていきます。



左：ホワイトファイバー  
右：シュンライ

## 「ホワイトファイバー」の特徴

### ◆ 今売れている、注目の「もち性大麦」

「もち性大麦」は水溶性食物繊維「β-グルカン」を豊富に含んでおり、消費者の健康志向の高まりを受けて需要が急拡大していますが、市販されている製品のほとんどは、外国産の原料を使用したものです。

外国産のもち性麦と比べ、炊飯したときの茶色味が目立たないことや、国産志向の高まりから、品質の良い国産「もち性大麦」への需要が増加しています。



ホワイトファイバー

市販もち性大麦  
(外国産)

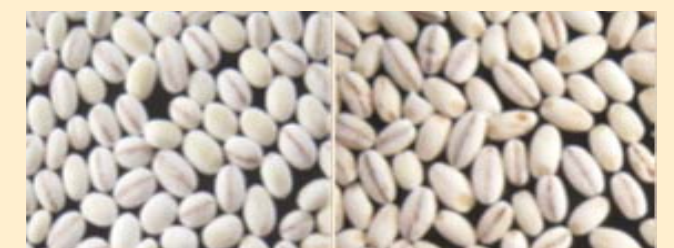
### ◆ 収量性に優れる

「ホワイトファイバー」は「シュンライ」と比較して、やや多収です。

表 古川農業試験場における収量調査の結果  
(H23～27年平均)

ホワイトファイバー	シュンライ
534kg/10a	496kg/10a

### ◆ 良品質：硝子率が低く、精麦白度が高い



ホワイトファイバー

市販もち性大麦  
(外国産)

# 「ホワイトファイバー」栽培ごよみ

月旬	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月																	
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中															
生育ステージ	出芽期												幼穂形成始期			幼穂形成期			節間伸長期			茎立期						減数分裂期			出穂期			穂揃期			開花期						成熟期		
主な作業	播種準備			播種			踏圧（越冬前）			踏圧（越冬後）			幼穂形成期追肥			茎葉処理剤散布			減数分裂期追肥			赤かび病防除（1回目）			赤かび病防除（2回目）						収穫														
	← 土壤兼茎葉処理剤散布 →																																												

ほ場の準備	施肥及び播種	栽培管理	追肥	収穫及び乾燥調製														
<ul style="list-style-type: none"> <li>●排水対策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・弾丸暗きよ</li> <li>本暗きよに直交させ、2～3m間隔で施工する。</li> <li>・明きよ</li> <li>10～30m間隔で施工し、排水路につなぐ。</li> </ul> </li> <li>●酸度矯正                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌pH 6.0～7.0</li> <li>土壌診断を行い、苦土石灰で矯正する。</li> </ul> </li> <li>●碎土率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・70%以上</li> <li>耕起は土壌水分が低いときに行う。</li> </ul> </li> </ul> <p>※品質低下を招く恐れがあるため、堆肥は施用しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基肥（10a当たり成分量）                     <table border="0"> <tr> <td>窒素</td> <td rowspan="3">} 8～10kg</td> <td rowspan="3">※稲わらをすき込む場合は窒素成分を10～20%増やす。</td> </tr> <tr> <td>リン酸</td> </tr> <tr> <td>加里</td> </tr> </table> </li> <li>●播種適期                     <ul style="list-style-type: none"> <li>北部平坦地域 10月10～20日</li> <li>南部平坦地域 10月20～30日</li> </ul> </li> <li>●播種量                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・10a当たり9kg</li> <li>・播種適期から遅れた場合は播種量を増やすが、多くても12kg以内とする。</li> </ul> </li> <li>●播種深                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・3cmを目安とする。</li> </ul> </li> </ul>	窒素	} 8～10kg	※稲わらをすき込む場合は窒素成分を10～20%増やす。	リン酸	加里	<ul style="list-style-type: none"> <li>●雑草防除 図1参照</li> <li>●赤かび病防除 図2参照</li> <li>●踏圧（麦踏み）                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・越冬前 1回（3～4葉期）</li> <li>・越冬後 1～2回（融雪後～茎立期）</li> <li>・耐寒性強化、凍上害防止、生育均一化等のため、上記を目安に踏圧を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●追肥量（10a当たり窒素成分量）                     <table border="0"> <tr> <td>（株直し）</td> <td>2kg</td> <td>（硫安10kg）</td> </tr> <tr> <td>幼穂形成期</td> <td>2.5kg</td> <td>（硫安12kg）</td> </tr> <tr> <td>減数分裂期</td> <td>2.5kg</td> <td>（硫安12kg）</td> </tr> </table> </li> <li>●追肥時期の目安                     <ul style="list-style-type: none"> <li>株直し 2月頃</li> <li>※生育量不足、葉色が淡い場合に行う</li> <li>幼穂形成期 幼穂長が2～3mm程度</li> <li>減数分裂期 幼穂長が30～50mm程度</li> </ul> </li> </ul> <p>※β-グルカン含有率の確保のため、<b>減数分裂期追肥は必ず行う。</b></p>	（株直し）	2kg	（硫安10kg）	幼穂形成期	2.5kg	（硫安12kg）	減数分裂期	2.5kg	（硫安12kg）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●成熟期の判定                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・茎葉、穂首が黄化</li> <li>・子実のほとんどが指でつぶせない</li> </ul> </li> <li>●収穫適期                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・子実水分30%以下（成熟期3日後頃から）</li> </ul> </li> <li>●乾燥                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・穀温が40℃を超えないよう送風温度を調整する。</li> </ul> </li> <li>●調製                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・篩目 2.3mm</li> <li>・子実水分 13.0%以下</li> </ul> </li> </ul>
窒素	} 8～10kg	※稲わらをすき込む場合は窒素成分を10～20%増やす。																
リン酸																		
加里																		
（株直し）	2kg	（硫安10kg）																
幼穂形成期	2.5kg	（硫安12kg）																
減数分裂期	2.5kg	（硫安12kg）																

## 雑草及び病害虫防除

図1 雑草防除体系 ※（ ）内は有効成分と使用回数

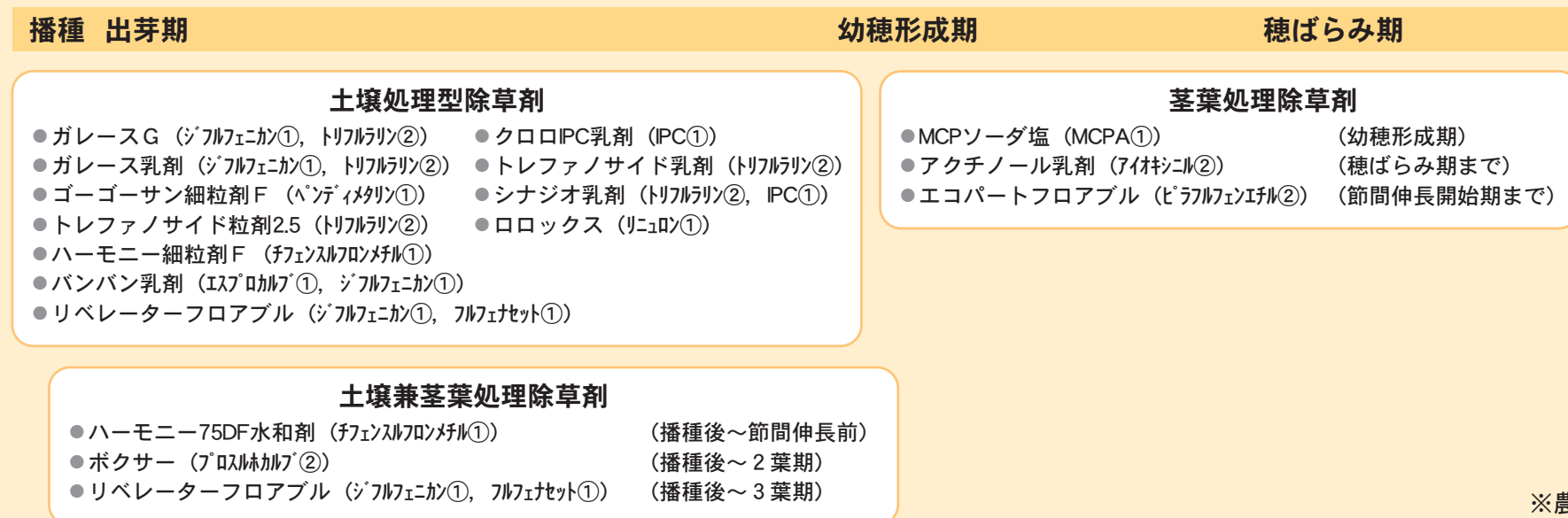
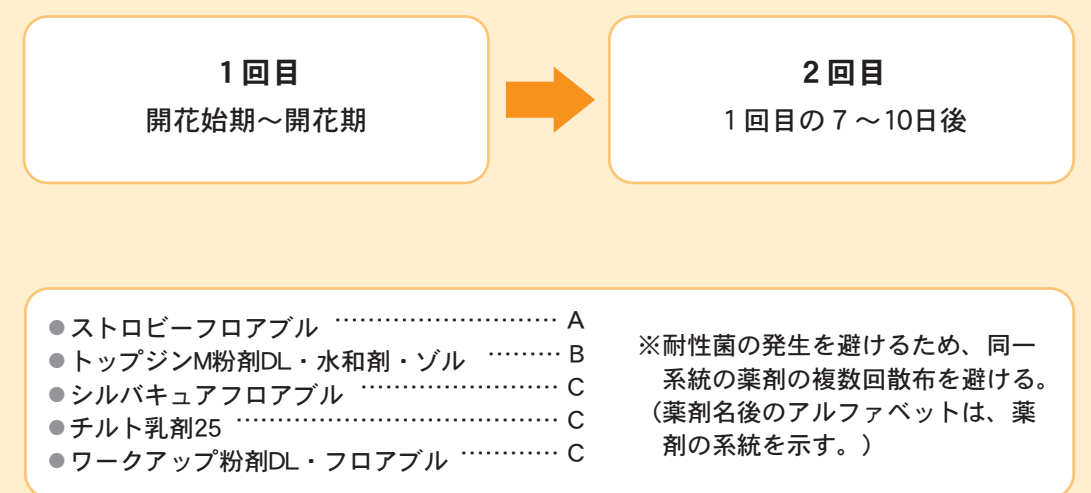


図2 赤かび病防除体系



※農薬登録は、平成30年9月12日現在のものです。最新の登録情報を確認してから使用してください。